



# 学校だより

令和8年4月吉日  
上越市立有田小学校  
校長 杉田 卓裕

## ～自分もみんなも大切に 一人一人のかがやきづくり～

今年度の当校で大切にしたい言葉「**自分もみんなも大切に 一人一人のかがやきづくり**」としました。この「**自分もみんなも大切に**」はこれまでも子どもたち、地域・保護者の皆様、そして、教職員に広く大切にしてきた言葉です。今年は、そこに「**一人一人のかがやきづくり**」という言葉を加えました。

「**自分もみんなも大切に**」がなぜ大切なのか、みなさんはこの言葉を聞いてどのようなことを思い浮かべますか？また、何を考えますか？

私は、まず、最初に思ったのは「自分を大切にしているだろうか？」ということです。「子どもたちも自分を大切にしているだろうか？」ということが浮かびました。自我の芽生えは1～2歳ころと言われています。そこから他者と自分とを比較したり、自分を客観視したりするようになるのが10歳前後だそうです。小学生時代に他者とかわり、発達がゆっくり進み、他者を意識したり、自分を認識したりするようになります。そうした発達の姿が進むときに、この「**自分もみんなも大切に**」という言葉が投げかけられたら、より自分や他人（友達や家族、仲間など）を意識できるのではないかと思います。そして、何よりも自分はどうか？自分のことを大切にしてきたかな？という視点をもてたらよいと思いました。学校では引き続き、この言葉を通して自分を大切にすることを子どもたちを育んでいこうと考えています。

また、この言葉の先には何があるでしょうか？少し考えてみました。それは、平和と民主主義です。この大切にしている言葉は、自分だけでなくみんなも大切にすることを求めています。人類は戦いの歴史と表現する方がいます。今も戦争が起きている現実があります。その姿は「自分もみんなも大切に」でしょうか。この言葉が伝える最終的な価値に「平和」があると考えます。「平和」って「自分もみんなも大切にできることだね。」とも言い換えられるのではないかと考えます。また、「自分もみんなも大切にするにはどうしたらよい？」と疑問の形にしたときには、自分の自由の尊重と他者の自由の尊重を求め、どちらも自由であることを尊重したいと対話が始まるのではないのでしょうか。その対話こそが民主主義でないかと考えます。今の社会や学校は、子どもたちの対話が始まる前に、それを大人が奪ってしまうことがあるようです。そのため、本気で自分のことを考えたり、相手のことを真剣に想像したりする経験が不足しているようです。子どもたちは自分で考えようとせず、他責思考になるとも言われています。言い換えると主体性と当事者意識が失われるのです。そして、今の若者には、この二つが欠けていると言われています。当校では、この「平和」、そして、「幸せ」をもとめる素敵な言葉「**自分もみんなも大切に**」があります。ぜひ、この言葉を通じて、子どもたちの“**主体性**”と“**当事者意識**”を取り戻し、自分の力で「平和」と「幸せ」を考える子どもを求めていきたいと思えます。当然、周りの大人と一緒に考える必要があります。引き続き、子どもたちのために温かいご支援、ご協力をお願いいたします。